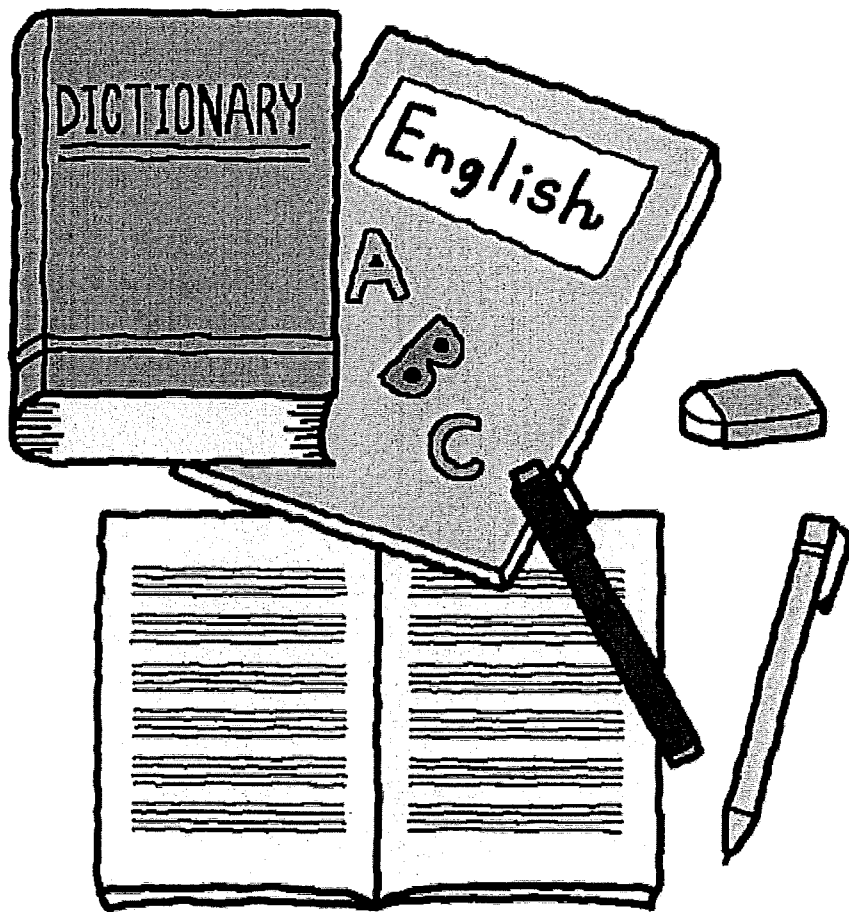


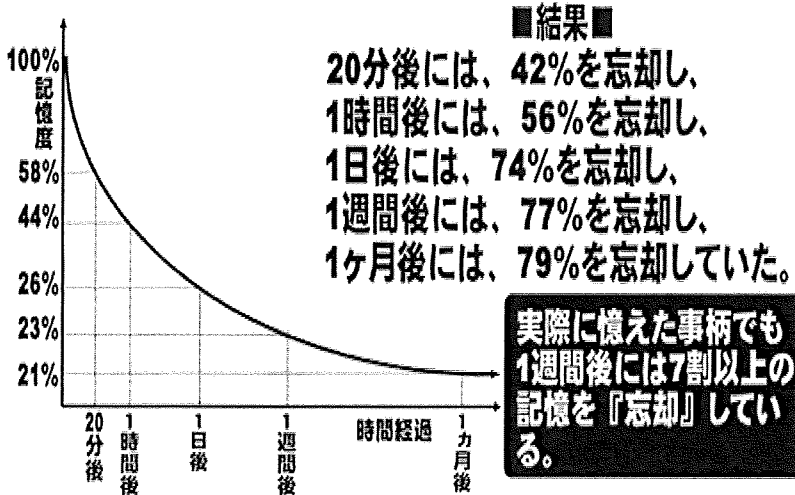
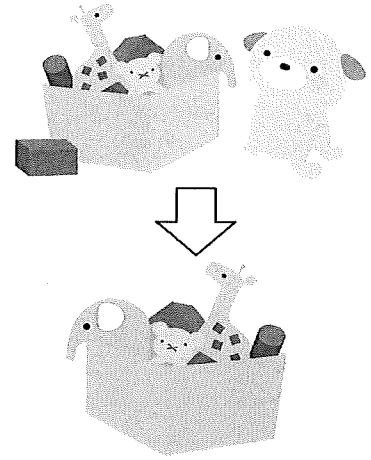
家庭学習 の手引き



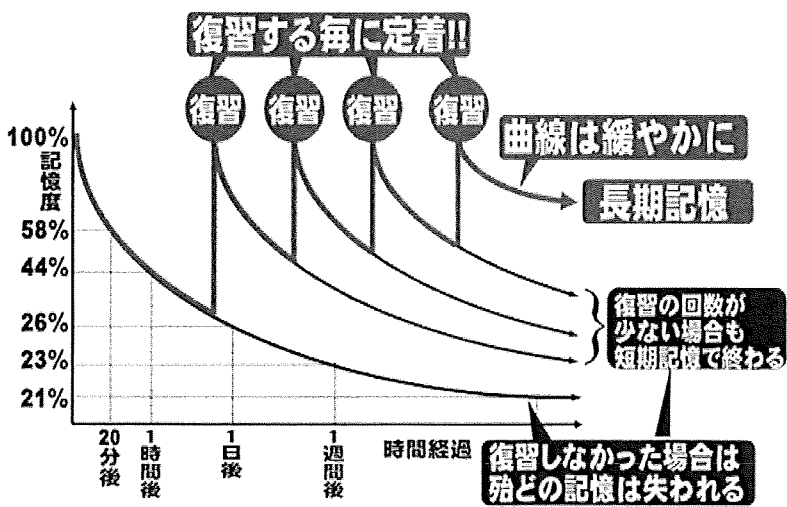
「授業の復習は大事」

おもちゃを片付けていなかったら、ある日おうちの人が片付けてくれたけど、勝手にいるものといらないものを判断して、いらなかったものを捨てちゃった。

「もうっ！！ どうしてアレまで捨てちゃったのっ！！ お気に入りだったのに～！！」なんて文句言ったら、「知らないよ！ あんたが自分で整理しなかったから悪いんでしょ！！」って言われて、「うう～・・・何も言い返せない・・・」なんて経験、みなさんにもあったりませんか？ 実は、みなさんの脳の中でもこれと似たようなことが起こっています。



みなさんが授業で勉強したとき、そこで覚えたり理解したことは、脳の中の引き出しにごちゃっと入れられます。そして、寝ている間に脳が勝手にいるものといらないものを判断して、いらなかったものを捨ててしまう（忘れちゃう）ということが起こっているのです。それを防ぐには、みなさんのおもちゃと同様に、自分できちんと整理しなくてはならないのです。



左の図は、頭に入ってきたものをどのくらい覚えていられるかを表したものです。1日後には74%も忘れてしまうと書かれていますね。つまり、授業で勉強したことも、何もしなければ翌日にはその大半を忘れてしまうのです。だからこそ、授業でやったことをその日のうちに（寝る前に）復習することが大切なのです。授業の復習をして自分で授業の内容をきちんと整理してお

けば、脳が勝手に捨てることもなくなりますよね。さらに言えば、復習を繰り返すと記憶がより定着するということが図からわかります。家庭学習の必要性がわかりましたか？

毎日の家庭学習に取り組もう！！

全校一斉の家庭学習が始まって1週間以上が過ぎました。毎日家庭学習BOXには何冊ものノートや問題集が入っています。2,3年生は教科担任制が始まって1年以上もたっているのに、このプリントも覚えがあると思いますが、28年度版としてページを追加して再度配布しますので、確認して下さい。

さて、1年生は家庭学習の取り組みについて小学校の頃にも担任の先生から説明を受けていると思います。先ほどのプリントでも、家庭学習の大切さを感じてくれたことと思います。今日配布した手引きのプリントは今後の家庭学習の参考にして下さい。授業の復習はもちろん、授業の復習以外の内容も自分のために継続して下さい。ただ、自分が学習しようとしているものが決まらないという人は是非、授業の復習をやるところから始めてみてください。そのための手引きです。授業の内容をその都度身につけていけば、テスト前にやらなきゃならない内容もきっと軽減するはず。テスト前にいっぱいいっぱいにならないように、日ごろから頑張ってみましょう♪

やり方などでわからないことがあったら、教科の先生にどんどん質問してください。

「継続は力なり」です！

＜ルールその1＞

家庭学習は積み重ね、基本毎日がんばる。

＜ルールその2＞

その日の授業でやったものをノートに復習する場合は「授業の復習」とわかりやすく書く。もちろん日付も書きましょう。

＜ルールその3＞

翌日、家庭学習提出BOXに入れる。忘れた場合は家庭学習担任に必ず報告する。

＜ルールその4＞

授業と同じで家庭学習も振り返ろう、やりっぱなしで終わらない。意欲のある人は2教科でも3教科でもOK。時間配分を考えて計画的に行おう。

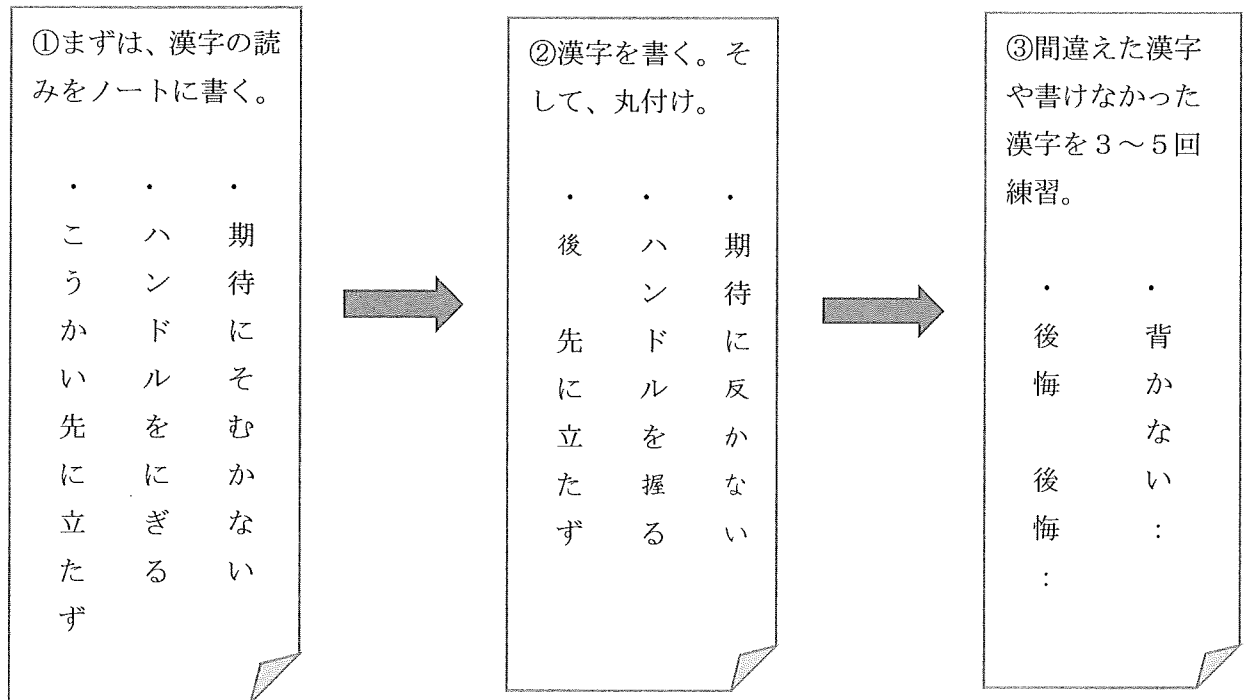
家庭学習の仕方《国語》

① 漢字の力を身につけよう

「国語」といったら、まず浮かぶのが漢字の練習かと思います。それは、正解だと思います。国語に限らず、どの教科でも問題を読むのに、答えを書くのに、漢字の能力は必要不可欠です。ちなみに、ここ最近の公立高校の入試では、漢字の読み書きだけでなく、四字熟語や誤字訂正なども出題されています。

漢字の読み書きは小学校高学年から中学2年生程度までのものを何度も復習しておくとうよいと思います。

漢字の練習方法の一つとして、下に例を挙げておきます。ご参考までに。



② 市販の問題集を利用して、読み取りの力を身につけよう

授業では、教科書の文章を使って、問題の読み取り方を学習します。授業の復習をすることで、教科書の文章の読み取りはできるようになると思います。しかし、学力テストや入試では、教科書の文章はなかなか出題されませんので、授業の復習だけだと限界があるのも正直なところです。

そこで、教科書ワークではない、国語のワークを用意して、さまざまな文章を読み取る練習をしましょう。例えば、学校で詩の学習をしているなら、他の詩の問題を解いて、力を試してみる、といった形で。3年生のみなさんは、『三年間の総整理』をぜひ活用しましょう。

国語の授業の復習

国語のノート

おくのほそ道 松尾芭蕉	月日は百代の過客にして、 行きかふ年もまた旅人なり。 舟の上に生涯を浮かべ、 馬の口とらへて老いを迎ふる者は、 日々旅にして旅を栖とす。 古人も多く旅に死せるあり。 予もいづれの年よりか、 片雲の風にさそはれて、 漂泊の思ひやまず、
江戸時代の紀行文。 元禄文化で活躍。 永遠の旅人 行く年くる年 一生を送り(↓船頭) くつわを取って(↓馬子)	旅に死んだ者も多い。 私。 ちぎれ雲が。

まずはこれをやろう！

国語で特に復習が必要となるのが古文です。古文の有効な復習方法としては、ノート作りがあります。具体的には、左のようなものです。

ノートを見開き2ページ使い、上のページには古文を視写します。その際、句読点ごとに改行することがポイント。下のページには上のページに対応するようにながづかいについてのポイントや、難語句の意味をまとめます。

できた人はこっち！

国語が得意な人は、古文の意味に注目して復習しましょう。特に以下の3点は重要です。

①古語

「あはれ＝しみじみと趣深い」
「うつくし＝かわいらしい」のように、現代語と意味が異なる古語に要注意。

②主語と話者

古文では主語や話者（誰が話しているか）が省略されている場合が多くあります。その見つけ方をトレーニングしましょう。

③文学史

作品や作者についての知識を身につけていきましょう。

できなかった人はこっち！

国語が苦手な人は、まずかなづかいにしばって復習するといいでしょう。歴史的かなづかいを現代かなづかいに直せる、ということは古文を学習する上で欠かせない基本。これができないと、いくら読んでも古文の意味は分かりません。逆に言えば、かなづかいのルールをマスターしさえすれば、千年以上前の文章であっても大まかな意味が分かるものなのです。

授業で古文を学習したら、ノート作りをして、すぐにながづかいチェック。できたら繰り返し音読も。この流れを習慣づけましょう。

家庭学習の方法【数学科】

数学は積み重ね！数学のプロフェッショナルを目指せ！

数学はとにかく毎日のトレーニングが不可欠です。学年が上がるごとに、学習内容がステップアップしていきます。学習したことをマスターしていないと次の学年であわててしまうこととなります。授業で学んだことはその日のうちに復習すること！これが「数学のプロフェッショナル」になるためのコツです。

【学習の流れ】

解き方・考え方を理解する



理解を深めるために、基本的な問題を解く



ひたすら問題を解き、レベルUPを目指す！

【どんなやり方があるの？】

1. 宿題をする。

家庭学習の基本は宿題です。宿題は何のためにでているかなと考えてみるとよいでしょう。学習したことをその日のうちに身につけておかないと大変なことになりますよ…

宿題は、教科書の問題だけでなく、プリントやワークのときもあります。

注意 宿題は、基本的に授業中にチェックしますので、朝のうちに提出する必要はありません。朝のうちに提出してほしいときはあらかじめ指示します。

2. 家庭学習ノートを用意する。

家庭学習ノートは朝のうちに提出します。授業ノートに家庭学習をやってしまうと、その日に授業があったときに「朝、ノート（またはワークノート）を提出しました…」となってしまいます。ワークノートを家庭学習として提出する場合は、授業後に出して下さい。

3. 市販されている問題集など

自分で問題集を用意して、家庭学習として提出してもかまいません。

【どんなことを学習すればいいの？】

1. 教科書・ワークの問題

教科書の問題には、「たしかめ」「問」「基本の問題」「章の問題」があります。教科書の問題は、基本から発展へと段階的になっていて、自分がどのレベルでつまづいているかがわかりやすいです。ワークは教科書と似た問題が多く出題されており、A・Bにレベル分けされています。

2. 問題集（市販）、塾、定期テストの復習など

自分でやってみてよくわからなかった問題が出てきたら、家庭学習ノートで質問してみよう。

とにかく問題を解け！いろいろな問題を解け！

数学の授業の復習

数学のノート

四則の混じった計算

$$\begin{aligned} & 2 \times 2 \times 2 = 8 \quad 4 \times 4 = 16 \\ & (-12 + 2^3) \times 4 + 4^2 \quad \textcircled{1} \text{ 累乗} \\ & = (-12 + 8) \times 4 + 16 \quad \textcircled{2} \text{ 加、この中} \\ & = (-4) \times 4 + 16 \quad \textcircled{3} \text{ 乗、÷} \\ & = -16 + 16 \quad \textcircled{4} \text{ 加、-} \\ & = 0 \end{aligned}$$

この順番で計算する問題によって、正しい順番は必ず。

$$\begin{aligned} & 3 \times 3 \times 3 = 27 \quad 6 \times 6 = 36 \quad (-2) \times (-2) = 4 \\ & (-3^3) \div 9 + (-6^2) \div (-2)^2 \quad \textcircled{1} \text{ 累乗} \\ & = (-27) \div 9 + (-36) \div 4 \quad \textcircled{2} \text{ 乗、÷} \\ & = -3 + 9 \quad \textcircled{3} \text{ 加、-} \\ & = 6 \end{aligned}$$

②の加、この中は、ないことにはした。

いつも同じ手順で
解くことを意識する!!

まずはこれをやろう!

ノートには、その日の授業でやった問題の解き方が詳しく書かれています。まずは、その解き方を1つ1つ確認して、解き方を理解していきましょう。

ちなみに、ここで理解していなかったら、その先に進んでも問題は解けないので、ここはじっくりと時間をかけて理解してください。

その後、同じ問題をノートに書いて、何も見ないで自分の力でできるかどうかやってみましょう。

できた人はこっち!

何も見ないでできたということは、やり方は理解できているということです。それなら、ワークにある同じような問題で練習してみましょう。

ワークの問題もできてしまったら、ワークの実力アップ問題にチャレンジすると、もっと効果的!

きっと、そこまでやった人は、次の授業の予習をしたのと同じような効果もあるはず。どんどん授業を理解するのが楽になっていきますよ♪

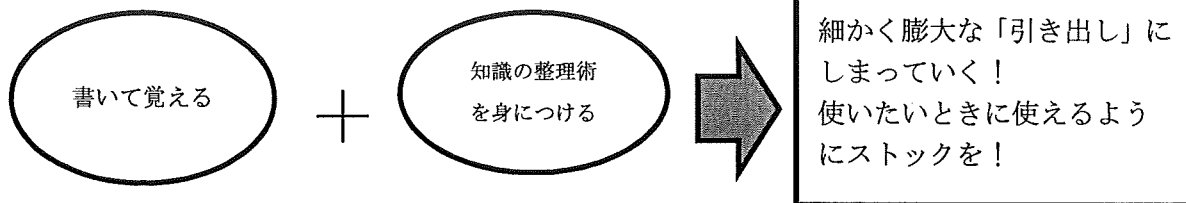
できなかった人はこっち!

できなかった計算は、絶対に消さずに、授業のノートと見比べましょう。途中計算の違いに気づけば、自分がどこでわからなくなったのかが見えるはず!

それでもなぜ自分が正解できないのかわからない人は、自分のやった計算をそのまま先生に見せてください。あなたの間違えたポイントを見つけて、どうすれば正解できるかを説明します。

わからないのをそのままにしておかないで、わからないのに気づいたらすぐに質問してください。

社会科 家庭学習について

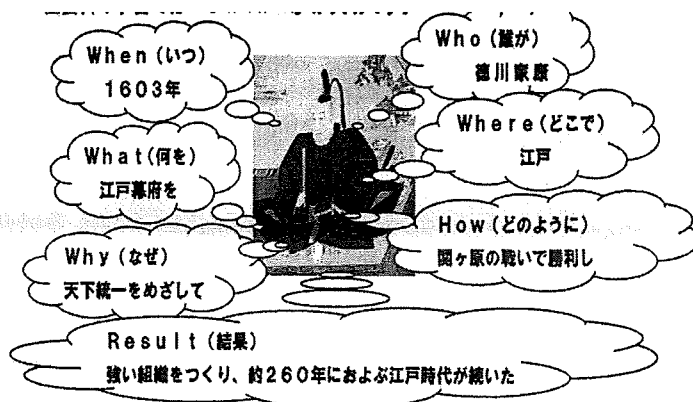


たとえば1：日本地理～

- ①「都道府県名」と「県庁所在地」これは書いて覚える。→覚える
- ②産業別・地方別で登場する用語を勉強する際に、必ず「今、どこの(何県の)勉強をしているのか？」自分で問いかけ、位置関係を確認。→知識の整理

大事なのはただ暗記ではなく、知識が散らかっている膨大な量を使えないので、さまざまな角度から適切な言葉を「引き出す」ことを要求されるので、ある程度①、②できたら引き出す練習を行う。(これがワークや練習問題！)そして、資料の読み取り。この反復が受験で点数をとるカギです！！

たとえば2：歴史～ 5W1H1Rが大切です。



＋
歴史は
ストーリー
(物語)
して勉強
しよう！

具体的に

- ①教科書やノート、地図帳・資料集を見る回数を増やす。
～地名は必ず地図で調べる。重要用語(太字)
- ②用語を整理する。
朝学習プリントや教科書などを使い、重要用語(基本用語)を整理する。
- ③授業内容やポイントをノートにまとめる。(①、②をよく頭におきながら)
その際にグラフなどと知識を結びつけよう(整理)
- ④問題にチャレンジする。(ワーク、学テ、プリント、問題集などなど) ⇒練習試合のようなもの

この反復が
試験での点
数の差にな
ります。

社会科で大切なのは、用語をただ暗記するというよりは、用語を説明できるようになろう！歴史は流れ(ストーリー)を覚えよう！知識を整理して使えるようになろう！そのためには毎日毎日コツコツを！これを続けた人が高い得点を取れる人です！！

やった分だけ力になるのが社会です。1度ではなく数回繰り返すからこそ力になります！

社会の授業の復習

社会のノート

(例)

日米修好通商条約



攘夷論



安政の大獄



桜田門外の変



尊王攘夷論

薩摩藩：生麦事件→薩英戦争

長州藩：外国船を砲撃

まずはこれをやろう！

ノートはあくまでも、教科書の内容を簡略化し、まとめたものです。

授業の内容を振り返るためには、教科書を読み込むことも大切です。

教科書とノートをあわせて、授業のポイントを自分なりにつかむことが重要です。

特にノートは、→でつながれた理由や背景をちゃんと自分なりの言葉で補足できるといいでしょう。

そして、今日の授業のポイントとなる「語句」を抜き出し、その語句の意味をまとめましょう。

できた人はこっち！

ポイントとなる重要語句は、1時間の授業でも5～10は出てくるはず。その「言葉だけ」を覚えても意味がありません。その言葉がどのような内容なのかを自分の言葉で説明できることが大切です。

その上で、ワークなどの問題集をとりこんでいきましょう。

間違えた問題は、その都度チェックし、あとでもう一度解きなおしましょう。その日に、週末に、月末に、テスト前に、4回繰り返しれば、必ず「記憶」として「定着」するはず。

できなかった人はこっち！

まずは、重要語句をしっかりと押さえることが重要。

「重要語句」はどうしても、時間がたつと忘れがちになってしまうものです。しかし、「重要語句」を覚えておかないことには、そこから先へは進めません。

ワークに取り組んだとしても、ほとんど答えを見て写すだけとなっていないませんか？

重要語句を抜き出したノートを作るなり、単語カードを作るなり、そのあとも繰り返し学習できる準備をしておきましょう。

理科の家庭学習の仕方

「なぜ」なのかを考える

人間の記憶にはいくつかのタイプがあります。丸暗記する能力は「知識記憶」、物事を根本から理解して理屈を憶える能力を「経験記憶」といいます。中学生はちょうど経験記憶が知識記憶を追い越す時期です。この時期に経験記憶の発達を助けるように「なぜそうなるのか」という論理的な考え方をしていくことは脳の発達にとって非常に大切なことなのです。

理科はこの経験記憶を訓練するためにぴったりの教科です。中学校の理科は日常的事象を数多くあつかっています。植物や動物、天気や星、地震、光や音など。これは自分の日常的な経験を思い浮かべて憶えることで経験記憶につながります。また日常の経験では得られないことから実験という形で経験できるのです。そして、この経験記憶を発達させるのに必要なのが「なぜ」と考えることです。理科で習うことからにはすべて理由があります。常に「なぜ」「どうして」と考えて理由をさがし、納得して憶える習慣をつけてください。それによって考える力「思考力」が発達していくのです。

実験

実験のやりかたや結果を丸暗記するのは「知識記憶」、実際に自分でやってみてやったことを憶えていることは「経験記憶」。実験の目的や結果、または実験の注意などなぜそうなるのか、なぜそれが必要なのか、を考えておくことでさらに「思考力」を身につけましょう。

理科の勉強法

(1) まとめノートをつくる まずその分野で大事なことがらをノートにまとめます。理科の教科書はまとめにくいという人は、問題集のポイント解説などを見てノートに要点を書き出すという方法でもかまいません。ただし、内容を丸写しするだけにならないようにしましょう。自分なりに何が大事なのかを考え、一つ一つのことがらについて理由をさがすようにしてください。自分で考えても理由がわからないときは先生に質問したり、詳しい参考書を見て調べたりしましょう。また、実験の注意や実験結果は特に大切ですから実験をやったときのことを思い出しながらノートに書き出してください。

(2) 問題練習 問題集は色々なものに手をつけてしまうと、どれもが中途半端になってしまいます。それは一番良くありません。少し薄い問題集でかまわないので一冊を何回も繰り返して練習したほうが実力が上がります。また、答を問題集に直接書き込まずにノートに書いておくと、後で何度も同じ問題を解くことができます。とくに苦手分野をやるにはよい方法です。問題はやりっぱなしが一番いけません。間違えたところはノートに書いてよく復習しておきましょう。

(3) 間違いノート 3年生の受験勉強では「間違いノート」が有効です。自分の間違えた問題をノートに書いておいてしばらく期間をおいてから何度もその問題をやってみるためのものです。一度間違えた問題というのは自分の弱点です。解説などをみてわかったつもりになっていてもしっかり理解できていないとまた間違えてしまいます。間違えたらその度に復習して弱点をひとつひとつ確実になくしていきましょう。

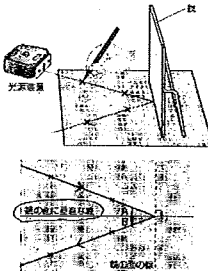
理科の授業の復習

理科のノート

学習課題
鏡に光が当たって反射する時の法則を見つけよう！

(予想)
光が鏡に当たった時の角度と同じ角度で反射するだろう。

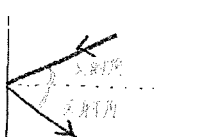
実験1
方法 ①鏡を記録用紙の目盛りに沿って垂直に立てる。
②光の源になめから当て、光の道筋に印をつける。
③鏡を外したら、印に沿って線を引き、AとBの線と目盛に、角度をはかる。
④いろいろな角度から光を当て、同様に印をつけて線を引き、角度をはかる。



Aの角度	68 (60)	45	30	
Bの角度	64	45	16	

(考察)
(自分の考え) 多少の誤差はあるけれど、光の角度と同じ角度で反射したといえる。(わかったこと) 3人のうち、2人は同じ角度だったことから、光が鏡に当たったときの角度と反射したときの角度は等しくなる。

(みんなの考えを聞いて) あつたか、あつたか。



まずはこれをやろう！

理科では、実験観察の授業と、説明を聞き考える授業とがあります。どちらも復習で大事なものは①「なぜそうなるか」を理解する、②それをワークの問題で応用することです。

復習では、授業の内容をくり返し読みしょう。ノートは要点だけ書かれているので、教科書も読むのがポイントです。実験観察は、目的や使う道具、手順、結果、なぜそうなるか、すべて読んでイメージします。

次に、何も見ないで自力でワークを解き、必ず丸付けまでします。ワークはためて一度にやらず、授業の度に少しずつやるのが大事。

できた人はこっち！

問題が自力でできた人は、ある程度内容が理解できているということです。でも、理解しきれていない部分もあるかも。

次は、①教科書のまとめのページにある応用問題や、ワークの「かためし」問題を解く、②間違えた問題についての「まとめノート」をつくり、解き方や考え方をまとめておく、③実験観察ノートをつくり、何も見ないで目的や使う道具、手順、結果、なぜそうなるか、を書き出す、ことに挑戦してみましょう。

できなかった人はこっち！

ワークの問題ができなかった人は、④用語や用語の内容を覚えられていない、⑤「なぜそうなるか」を理解しきれていない、⑥表現や計算の練習が足りない、のどれかです。

④なら、ワークの用語ページ(左ページ)の答を隠して、暗記しましょう。⑤なら、教科書やノートに戻り、「なぜそうなるか」を確認しましょう。わからない時は、先生や友達に質問して解決を。⑥なら、解答の計算の仕方や文の書き方によく目を通して、くり返し練習しましょう。

家庭学習の仕方 英語

①まずは授業の復習を中心に！

その日の授業でやったことを復習しましょう。

- ・文法事項をまとめ直す。
- ・文法事項の内容が含まれた練習問題を解く。(ワークなど)
- ・教科書の英文を訳してみる。
- ・習った単語の練習をする。

②2、3年生は過去にさかのぼって苦手克服に努めよう！

以前習ったところが理解できていないと、新しいことも理解しづらいぞ！

- ・以前習った文法事項を確認し、覚えなおそう。
(1、2年生の教科書やワークを使って)
- ・以前習った単語をもう一度確認し、完璧に覚えよう。
(これも1、2年生の教科書を使って)

③教科書を読もう！

ノートに書かないので提出はできませんが、教科書を何回も読むことも大切です。

すべての勉強の仕方に共通すること

- ・わかるまで繰り返すこと！ (質も大事だけれど、量も大切！)
- ・テスト形式で確認すること！ (わかったつもりが一番ダメ！)

形だけやってもダメ！意味のある取り組みをしよう！

英語の授業の復習

英語のノート

単語の練習の仕方の例

単語、連語を覚えよう program3-1 3年 組名前

英語	読み方	意味	英語	意味	英語	意味
1 ride	ライド	乗る				
2 easy	イージー	やさしい、簡単な				
3 necessary	ネセサリー	必要な				
4 concert	コンサート	コンサート				
5 garbage	ガービッジ	ゴミ				
6 waste	ウェイスト	むだ、ごみ				
7 What a waste!	ワット ア ウェイスト	何というむだでしょう				
8 chair	チェア	イス				

まずはこれをやろう！

まず大事なことはその日の授業の内容を定着させること。文法事項であればノートにポイントをまとめ直す。単語や連語は何度も書いてスペルを覚える。

そのあとにテスト形式で覚えたかどうかを確認する。単語であれば意味だけをまず書いて、何も見ずに単語を書いてみる。逆に単語だけを見て意味を書いてみる。文法事項は実際に文章の中で使えるかどうかをワークブックなどの練習問題で覚えたかどうか確認しましょう。

できた人はこっち！

単語を覚えて、ワークブックもある程度大丈夫な人は、自分で問題を作って解いてみるのがいいでしょう。日本語を英語にしたり、英語を日本語にしたりする練習をしましょう。教科書の英文を参考にして問題を考えるといいです。

それも大丈夫なら教科書を読む練習をしましょう。教科書を見なくても自然とフレーズが出てくるまで何度も繰り返し読みましょう。そうすると、英語の文の構造が自然と身について、間違った文に接した時に違和感を感じるようになります。

できなかった人はこっち！

単語のチェックで覚えている単語が少なければ、何度も繰り返すしかありません。キーワードは「覚えるまでやる」です。

ワークブックをやるにしても、合っていた間違っていたで終わらずに、できなかったところは何度も繰り返すことが大切です。そのためにもワークに直接書き込まずに、ノートにやることをお勧めします。解答を見てもよく理解できないことは先生に質問しにくることも大切です。

勉強をする上で大切なのは根気強さですよ。